

統計数学IA 第1回

担当：三角 淳 2015年4月14日

講義概要 (教科書 p1-3 も参照)

- ・ ガイダンス。
- ・ 試行と事象。
- ・ 根元事象 (標本点) ω 、標本空間 Ω 、全事象 Ω 、空事象 \emptyset 。
- ・ 和事象 $A \cup B$ 、積事象 $A \cap B$ 、余事象 A^c 。
- ・ 排反事象： $A \cap B = \emptyset$ 、部分事象： $A \subset B$ 。

レポート問題 以下の [1] の解答を、次回の授業のはじめに提出して下さい。(授業に関する要望・質問等があれば、レポートの余白に記入して下さい。)

[1] 1から12の番号の書かれた12枚のカードから1枚を取り出す。事象 $A = \{4\text{の倍数が出る}\}$ 、 $B = \{6\text{の倍数が出る}\}$ に対して、和事象 $A \cup B$ として正しいものを次の中から1つ選べ。(答えだけでなく、理由も簡単に述べて下さい。)

- (1) $\{4\text{か}8\text{が出る}\}$
- (2) $\{12\text{が出る}\}$
- (3) $\{4, 8, 12\text{のどれかが出る}\}$
- (4) $\{4, 6, 8, 12\text{のどれかが出る}\}$

補充問題

[2] 事象 A, B, C に対して次を示せ。

- (1) $A^c \cup (B^c \cap C) = (A \cap B)^c \cap (A^c \cup C)$
- (2) $(A \cup B^c) \cap (B \cup C) = (A \cap B) \cup (A \cap C) \cup (B^c \cap C)$

[3] 事象 A, B, C, D に対して $E = A^c \cap B$, $F = A^c \cap B^c \cap C$, $G = A^c \cap B^c \cap C^c \cap D$ とおく。

- (1) $A \cup B \cup C \cup D = A \cup E \cup F \cup G$ を示せ。
- (2) A, E, F, G は排反である事を示せ。

中間試験予定日 6月9日

(但し予定が変更になる場合もあるので、直前の時期のアナウンスにも注意して下さい。)

(裏面に、授業方針等の説明があります)

授業内容：確率論入門

- ・ 確率空間
- ・ 条件付確率
- ・ 事象の独立性
- ・ 確率変数
- ・ 分布
- ・ 期待値、分散

教科書：尾畑伸明「確率統計要論」牧野書店

成績評価：

- ・ 中間試験約 40 %、期末試験約 40 %、レポート約 20 %。
- ・ 2/3 以上の出席が必要。（特例欠席を除いて）6 回以上の欠席は不可ですので、注意して下さい。

オフィスアワー：火曜 12:00～13:00、619 号室

E メール：misumi(at)kochi-u.ac.jp（at を@に変えて下さい）

ホームページ：<http://www.math.kochi-u.ac.jp/misumi/>

レポートの扱いについて：

- ・ レポートは 1 回 2 点満点です。
- ・ レポートは、原則として次の回の授業のはじめに回収します。少し遅れて提出されたものは、最終的な成績が 60 点に満たない場合に限ってプラスアルファの材料とします。（大幅に遅れたものは無効になります。）
- ・ この授業では、授業時間内に提出されたレポートで出席確認を兼ねます。（初回のみ出席確認用の用紙を回します。また中間試験の次の回は、答案の返却で出席を確認します。）
- ・ 教室に来ていても、レポートの提出がない場合は出席とは認められないので注意して下さい。（前回欠席したなどの場合は、授業に関係した別の内容などを書いて提出したもので構いません。）
- ・ 授業に出られない回で、可能な場合は事前に 619 号室の入口の袋にレポートを提出してもらえれば採点します。
- ・ 授業に出られなかった回に出題された問題は、上記のホームページの、「授業関係」の 2015 年度のページから参照できます。（略解については授業時間内に受け取るか、または研究室に受け取りに来て下さい。）
- ・ 特別な事情がある場合は、状況に応じて配慮しますので申し出て下さい。